

守谷総合人生大学

(生涯学習の仕組み、学校教育法上の大学ではない)
の創設

グループ提案

会田榮光、片桐真奈美、古橋俊夫

守谷総合人生大学のイメージ・・・たたき台

1. キャンパス

- 公民館や市民活動支援センターをそれぞれキャンパスとして活用
- 市外通勤のサラリーマン向けに、夜間専用の駅前キャンパスを配置

2. 受講対象者

- 義務教育終了で、守谷市在住あるいは守谷市の企業等に勤務の方

3. 学生種別

- 本科生→1年間の規定のカリキュラムを受講するもの・・・卒業証書授与
- ゲスト学生→スポットの講座受講やイベントに参加するもの

4. 学習コース（例えば）

本科生向け・・・1年コース	ゲスト学生向けコース・・・スポット
<ul style="list-style-type: none">□守谷市まちづくり学科<ul style="list-style-type: none">・まちづくりリーダー育成学科・まちの案内人学科□社会福祉学科<ul style="list-style-type: none">・介護福祉学科・子供支援学科□物作り学科	<p><現行の講座を有効活用></p> <ul style="list-style-type: none">・趣味の講座・子育ての講座・スポーツ講座・パソコン講座・・・

スケジュール

年度	実施項目	
初年度 (平成22年度)	調査・研究と 大学立ち上げ準備	①大学設立準備委員会メンバー編成 ⇒9名程度(市役所4名、市民4名、アドバイザー1名) ②大学設立のための調査研究 ⇒調査結果と実施モデルについての報告 ③設立準備 ④1期生募集
2年度 (平成23年度)	試行年度	①開校式 ②大学の試行運営開始 ・・・学園祭なども行う ③1期生卒業式 ④大学の評価と改善 ⑤2期生募集
3年度以降 (平成24年度 以降)	本格運営年度	○本格運営を開始し、継続的に大学を運営

期待効果

1. 市民は、「守谷総合人生大学」を活用することで、多くの学習メニューから市民の希望に合った学習の機会が得られ、**市民の個性に合った生きがいつくりが可能**になる。
2. 市民は、「守谷総合人生大学」を活用することで、**市民参加型の生き甲斐作り**ができる。
 - ・ 学習する人として参加し、生き甲斐作り
 - ・ 教える人として参加し、生き甲斐作り
3. 市は、まちづくりや福祉サービス等、**市が必要としている協働事業の人材を育成したり、人材を得ることが**できる。
4. 受講者のコミュニティ作りを支援すること（卒業生OB会等）で、**まちづくりのために積極的に参加してくれる組織や、先導的な組織の構築が可能**。

最後に

□本事業運営に伴う、市の費用負担は小さい

本事業は既にある市や市民のファシリティや学習資源を活用していくことから、**大きな費用は必要ない**。

□更に費用削減の可能性がある

生涯学習は教育委員会以外の市の各部門が個別に関わっており、

本学を創設し、**生涯学習の一元化を行えば、生涯学習に係わる各部職員の管理作業負担を削減**できる。

このことは、市全体としての生涯学習に係わる費用削減の可能性を示している。